

防災・減災楽しく学ぶ

中区で 親子連れ意識高める フェスタ

浜松市中区の市防災学習センターはこのほど、講座やワークショップで防災を楽しく学ぶ「春フェスタ2019」（静岡新聞社・静岡放送後援）を同センターで開いた。市民の投票で決まったセンターの愛称「はま防々家（ぼくや）」の看板除幕式も行われた。

静岡文化芸術大のボランティアサークル「わいの」による講座では、親子連れが学生と一緒にセンター周辺を歩き、災害時の危険箇所や消火器、消火栓などの場所を探した。帰着後は、ブロック



防災・減災に向けて地域の危険箇所などを地図に記入する子どもら＝浜松市中区の市防災学習センター

塀が倒れたら危ない」など意見を出し合い、気になる地点を地図に記入して防災・減災への意識を高めた。参加した市立曳馬小

3年の今原徳馬君(9)は「思ったより危ない場所が多かった」と話した。

新聞紙を使ったスリッパや食器作りのワークショップも人気を集めた。センターの愛称は、公募作品241点から西区の小学生の作品が選ばれた。
(浜松総局・佐野由香利)